

麻疹（はしか）について

麻疹は、感染力が強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症する病気です。そのため、一緒に生活しているご家族や、同僚、同級生など患者さんと接した方で免疫を持っていない方や、麻疹患者さんと少し離れたところにいた方で免疫を持っていない方は麻疹にかかる可能性があります（空気感染します）。

麻疹は時に重い病状を引き起こすこともあり、注意が必要です。麻疹という病気の特徴を知っていただき、健康状態について以下のような点にご注意ください。

1. 麻疹はどんな病気？

☆**潜伏期間は、通常10～14日（約2週間）**です。

ただし、**ワクチン接種歴がある方では、潜伏期間が長くなる場合があります。（約3週間）**
患者さんと接したからといって、すぐに発病するわけではありません。

☆**初期症状（はじめの3～4日）は発熱（38℃前後）と咳、鼻水、目の充血、目やにが出る、**
などです。

その後**いったん熱が下がり、再び熱が出ると同時に全身に発疹が出ます。**さらに**4～5日高熱が続きます。**

麻疹患者さんと接触

○月（例）

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 ★ (発症1日前)	11 発熱 (発症日)	12 いったん熱 が下がる→	13 また熱が上 がりはじめ る→発疹	14
15	16	17	18	19 症状が 徐々に軽減 する	20	21
22 ★	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

★**症状が出る1日前から熱が下がった後3日間（★まで）は、人へ感染させる力（感染力）があり、特に咳のある時に最も感染力が強くなります。**

2. 麻疹の患者さんと接したらどうするの？

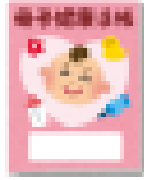
①**麻疹ワクチン接種歴（2回）を母子手帳等で確認しましょう。**

（麻疹の予防接種は昭和41年から任意接種として開始、昭和53年から定期接種として始まり
ました。）

昭和52年4月1日以前生まれの人は定期接種の機会無し。

昭和52年4月2日～平成2年4月1日生まれの人は定期接種1回の機会あり。

平成2年4月2日以降生まれの人は定期接種2回の機会あり。



平成 18 年から 2 回接種開始
(1~2 才、小学校就学前)
平成 19~24 年まで時限措置として
中 1、高 3 へ定期接種実施

- ・昭和 45 年以前に生まれた方は、幼少期にほとんどの方が麻しんにかかっています。
一度かかった方は、再度かかる心配はないと言われています。

② 自分自身の健康観察をしましょう。

- ・ **体温を確認** しましょう (体温測定は潜伏期間を考慮して **3 週間** 続けてください。)
→もし体温が **37.5℃** 以上になった場合は、外出を控えて庄内保健所へご連絡ください。



※予防接種歴があった人も、1 回の予防接種で免疫がつかない場合や、免疫が弱くなっている場合がありますので、健康観察をお願いします。

③ 熱が出て、医療機関を受診する際の注意

- ・受診する際には、保健所へご連絡いただければ、**感染対策できる医療機関をご紹介しますので、「麻しんの患者さんと接した可能性がある」と伝え受診の方法を確認してください。**医療保険による受診となります。
- ・**マスクを着用** して受診しましょう。受診の際には公共交通機関の利用は避け、麻しんへの免疫がある方から協力を得て受診してください。



④ 麻しんと診断された場合

- ・熱が下がった日の翌日から **3 日間** は、外出をお控えください。
(学校保健安全法に基づく出席停止期間)

3. 予防接種は？

- ・麻しんにかかったことがなく、麻しんワクチン未接種の方には接種をお勧めしますが、妊娠中など予防接種を受けられない場合もありますので、主治医とご相談ください。
- ・麻しんの患者さんと接触して時間がたっている場合は、接種をしても発病を予防する効果が得られない場合があります。しかし、ワクチン接種をしておくことで、今後の感染予防に効果があります。

☆この場合の予防接種は有料です。(任意接種扱い)

接種なさる医師から副作用等に関する説明を受け、よく納得した上で接種してください。

庄内保健所 感染症対策担当 TEL : 0235-66-4920 (直通)